



こども政策の推進に係る有識者会議 資料

NPO法人わかもののまち 事務局長
一般社団法人トリナス 代表理事

土肥潤也 / JUNYA DOHI



J-CEF
日本シティエンシング教育フォーラム



Next Commons Lab



hmr
seventh sense





自己紹介



NPO法人わかものまち 事務局長 一般社団法人トリナス 代表理事

日本シティズンシップ教育フォーラム 運営委員
みんなの図書館さんかく 館長
セブンセンスマーケティング株式会社 執行役員
地域イノベーション担当
Next Commons Lab コーディネーター
ソーシャル・ジャスティス基金 審査委員
公益財団法人あくるめ 審査委員

〈略歴〉

- 1995年 静岡県焼津市生まれ
- 2015年 学部在学中にNPO法人わかものまちを設立
- 2017年 静岡県立大学 経営情報学部 卒業
- 2019年 早稲田大学大学院社会科学部研究科
都市・コミュニティデザイン論 修了
- 2020年 一般社団法人トリナスを共同設立

〈公職等〉

- 静岡市 青少年問題協議会 委員
- 焼津市 未来創生総合戦略推進会議 委員
- 内閣府 子供・若者育成支援推進のための有識者会議構成員
- 内閣府 若者円卓会議 委員



NPO法人わかもののまちは、 わかもののまちづくりの中間支援を行う ネットワーク組織です。



わかもののまちサミット

全国の若者、実践者、研究者等が
集う場として、年1回開催



わかもののまちづくり ハンドブックの出版



コーディネーター派遣/伴走支援

わかもの会議、高校生のまちづくり参
加事業、ユースセンターの開設 等

※現在 6 つの自治体の事業に協力



今日お伝えすること

- ① 子ども・若者の社会参画をめぐる現状と課題
- ② 子ども・若者の参画政策を推進する上での提言



いま子ども・若者の 社会参画は流行っている。



子ども議会（会議）・若者議会（会議） 全国自治体一斉調査

●子ども議会（会議）・若者議会（会議）の取り組み状況

事業数（構成比）	
現在取り組んでいる	431事業（34.8%）
過去に取り組んでいた	302事業（24.4%）
取り組んでいない	505事業（40.8%）

N=1238

早稲田大学卯月盛夫研究室とNPO法人わかものまちによる2019年の共同調査。

○対象自治体：1,741自治体（市772、特別区23、町743、村183）

○回答数：68.7%（1,196自治体） ○対象事業：1238事業



事業の開始年



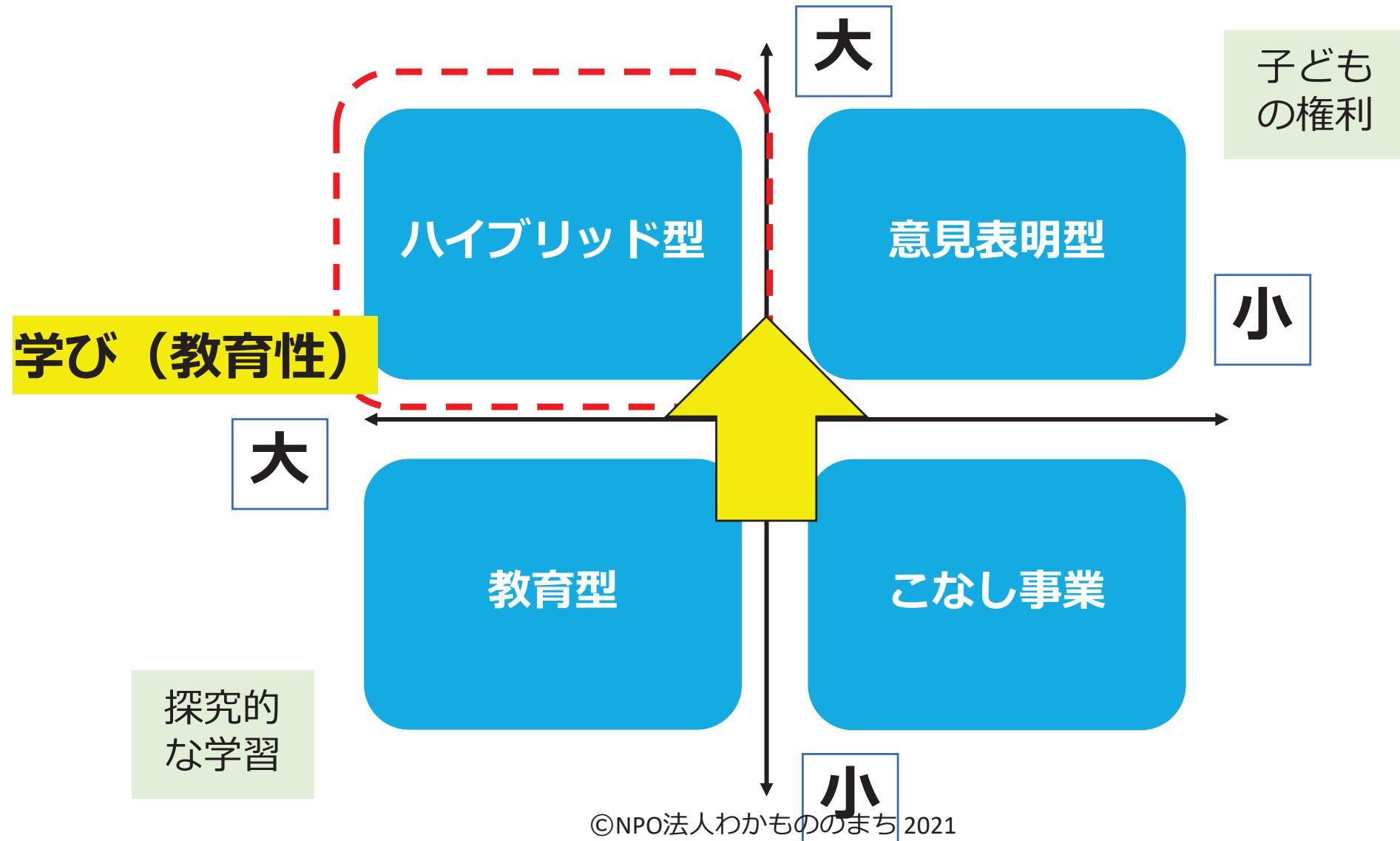


子ども議会・若者議会の年表

	年代	出来事
第1期	1994年以前	
第2期	1994年から2014年	<p>1994年4月 国連子どもの権利条約に批准</p> <p>2000年12月 川崎市が国内で始めて「子どもの権利に関する条例」を制定（その後、奈井江町、多治見市、目黒区、芽室町、名張市、魚津市、岐阜市、白山市、射水市など多数の自治体が、子どもの権利に関する総合条例を制定）</p>
第3期	2015年から2018年 (現在)	<p>2015年6月 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられる改正公職選挙法が公布（2016年6月に施行）</p> <p>2015年9月 「まち・ひと・しごと創生法」が公布（2016年4月に施行）</p> <p>2015年10月 文部科学省初等中等教育局長から「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」の通知が出される。</p>



意見反映（権利性）





静岡市高校生まちづくりスクール

- 学生時代に立ち上げた「わかもののまち 静岡」の平成27年度の提言を受けて、静岡市総合戦略の重点事業に「**わかもののまち推進事業**」が盛り込まれる。
- 平成28年度より試験事業として、若者が静岡市に政策提言を行う「**静岡市わかもの会議**」を開催（NPO法人わかもののまちが事業協力）
- 平成29年度から現在まで、「**静岡市高校生まちづくりスクール**」（通称：まちスク）として事業継続。
- 静岡市のモデルをもとに、名古屋市、菊川市、磐田市、袋井市でも高校生事業がスタート（NPO法人わかもののまちが運営協力）





〈参加者の感想の一部を抜粋〉

- まちスクに参加して、憧れる大人たちをたくさん見つけることができたし、自分でも地域のために動くことができるることを知って、本当に嬉しかった。もっと自分から積極的に行動してみようと思うことができた。
- すごく楽しかったです。様々な視点から考える力もついたし、他にも課題を見つけたりもできました。ありがとうございました。
- 自分の静岡に対する考え方方が変わったり、自分自身の成長に大きくつながったと思います。他にも、相手に伝わる話し方など、社会に出た時に役立つスキルも手に入れられたので良かったです。
- 参加して、視野がとても広くなり、学ぶこともとても多く、参加して本当によかったです。ありがとうございました!!
- コロナ禍や対人等の不安の中で、秋に始まったこのプロジェクトですが、今終わってみて、やりがいとさみしさを感じます。温かく居心地の良い環境下で、多くの人とふれあえたこと、その中でプロジェクトを真剣に進めていくことは自分の人生の財産になると思います。たくさん友達ができて良かったです。まちスクのおかげで周りを見る視野が広がりました。半年間楽しかったです。まちスクでの体験を大学生活でも生かしたいです。半年間、ありがとうございました!
- めちゃめちゃ楽しくてもう少しあっても良かったな。みんなと仲良くできた!



高校生の感想から見えてきたこと

- ・視野の広がり/新しい価値との出会いが高校生の大きな刺激になる
 - ・同年代の学校が異なる友人、ちょっと年上のお兄さん/お姉さん（大学生世代）、地域の大人（NPO、企業人、行政職員等）
- ・まちに飛び出す活動の経験によって、社会の参画主体としての意識が醸成される
 - ・高校生にも地域/社会が変えられる実感。
 - ・そもそも、初期は高校生がまちづくりに関わって良いとも思っていない。→当事者意識の醸成



子ども・若者参画政策への提言

子ども・若者の参画を、流行りで終わらせない。
日本の当たり前、文化にしていきたい。

- ① 新設される組織に参画担当部署を設置してはどうか
- ② 男女の比率と同様に、各省庁/自治体の審議会に平均年齢の努力目標を定めてはどうか
- ③ 子若法で自治体の努力義務となっている「子ども・若者計画」に参画プランを盛り込んではどうか
- ④ 子ども・若者の参画を推進するコーディネーター（ユースワーカー）の養成及び予算確保を行なってはどうか